1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名	B棟
--------	----

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①個別ケアの充実、②笑い・喜びの提供(行事やコミュニケーション)、③悩み・悲しみの共感

事業所番号 0292400025 法人名 いかり商事株式会社 事業所名 グループホームアップル鶴の里 所在地 青森県鶴田町大字横萢字矢留崎97 自己評価作成日 平成22年12月10日 評価結果市町村受理日 ▼成 年 月 В

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック) (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	社会	福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中	央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成22年12月25日			

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価	5機関記入)】
-----------------------------	---------

V .	. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	項目 取り組みの成果 ↓該当するものに〇印			
EG	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意	O 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 O 1. ほぼ全ての家族と			
30	向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	Tいる 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:9,10,19) 4. ほとんどできていない			
7	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 面がある (参考項目:18.38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 3. たまに 4. 5. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6. 6.			
8	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	3. 利用者の1/3くらいか	4. はとんとない 4. はとんとない 2. 少しずつ増えている 65 の理解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない 3. あまり増えていない			
)	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	4. ほとんどいない O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	(参考項目:4) 4. 全くいない			
)	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけて いる (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			
1	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	〇 1 ほぼ全ての利田老が	0 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない			
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外	項目	自己評価	外部	外部評価		
己	部	填 口	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ι.	理念	念に基づく運営					
		〇理念の共有と実践					
1	(1)	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、見えやすい場所に、掲示している。				
		○事業所と地域とのつきあい					
2	(2)	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流 している	学校、町の行事には運営推進会議等を 通して情報を得たり、協力している。				
		○事業所の力を活かした地域貢献	まずは、認知症対応の事業について、				
3		事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	会議等を通して、説明している。また、祭りや行事のボランティアの受け入れ体制も整っている。				
		○運営推進会議を活かした取組み					
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、地域や町の活動情報を意見を聞きいれ、参加や改善に取り組んでいる。				
		○市町村との連携					
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ター職員が参加している。 常に町の動き				

自	外	項目	. te □	自己評価	外部	評価
己	外 部	填 日	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
		○身体拘束をしないケアの実践				
6	(5)	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	に契約時に説明している。自由な出入り に関しては、併設事業所と連携を図り、			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	特に勉強会を開催していない。しかし、 ケアの上で、体にアザや異変があった場 合は、職員間で原因を追及している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の 必要性を関係者と話し合い、それらを活用で きるよう支援している	部署内で一度、勉強会を開催している 程度。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明 を行い理解・納得を図っている	各項目に関して説明はしているが、重度 化については口頭での説明をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員 並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを 運営に反映させている	意見箱は設けている。その他、その都度 利用者に関わる事は家族に問うようにし ている。			

自	自外項目		自己評価	外部	評価
己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○運営に関する職員意見の反映			
11	(7)	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会を設けて、個別に改善や要望を聞いている。		
		○就業環境の整備			
12		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、や りがいなど、各自が向上心を持って働けるよ う職場環境・条件の整備に努めている	健康診断は毎年実施。就業規則を各事 業所に配布し、内容を把握するようにし ている。研修や会議録の回覧している。		
		〇職員を育てる取組み			
13		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングし ていくことを進めている	その人に合った研修をその都度実施し、 研修報告会及び記録に残している。		
		〇同業者との交流を通じた向上			
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会の定期的研修や懇 親会等に参加している。		
Ι.	安心	と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を 傾けながら、本人の安心を確保するための関 係づくりに努めている	入所面談や契約時に利用者及び、家族 の要望を聞き入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を 傾けながら、関係づくりに努めている	身体的、精神的異変がある場合は、家族、医師と連携を図り、利用者や家族の精神的な軽減を努めている。		

自	外部	項目	自己評価	外部	評価
己	部	垻 日	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を 見極め、他のサービス利用も含めた対応に努 めている	まずは出来る事を最優先し、ケアの取組みに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人にあった役割を与え、共にに行いA DL向上、または、維持に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時は家族に結果報告し、場合によっては要望を取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	本人や家族を通じて関わりのある人への 行事参加を呼び掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これま での関係性を大切にしながら、必要に応じて 本人・家族の経過をフォローし、相談や支援 に努めている	などその人に合ったサービスの支援をし		

自	外部	項目	自己評価	外部	評価
己	部	垻 日	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I	I. そ	の人らしい暮らしを続けるためのケアマ	ネジメント		
		○思いや意向の把握			
23	(9)	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の 把握に努めている。困難な場合は、本人本位 に検討している	例えば、今現在何をしたいか、どこに行きたいか、何を食べたいかなど不定期ではあるが個々に聞くようにしている。		
		〇これまでの暮らしの把握			
24		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の 把握に努めている			
		○暮らしの現状の把握			
25		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、食事状態を記録に残している。		
		〇チームでつくる介護計画とモニタリング	まだ、家族を交えるまでは至らないが、		
26	(10)	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を口頭で聞き、ケア会議に取り組んでいる。また、3ヶ月毎の見直し、ケア会議を開催している。		
		○個別の記録と実践への反映	日々の生活の様子や言動、状態の変化		
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工 夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有 しながら実践や介護計画の見直しに活かして いる	情報共有を徹底している。ケア会議で		
		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)			
28		本人や家族の状況、その時々に生まれるニー ズに対応して、既存のサービスに捉われな	開設1年6ヶ月なので正式な短期入所事業では無く、独自の短期入所事業を開設。また、併設事業所と連携を図り、交流を保っている。		

自己	外	項目	自己評価	外部	評価
己	部	次 口	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○地域資源との協働			
29		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全 で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支 援している	ア、消防署職員の派遣、学校行事へ参		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族に結果報告し、今後の要望などを取り入れている。また、希望があればその人に合った病院へ受診できるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切 な受診や看護を受けられるように支援している	イスを伺う等、相談指示体制ができてい		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に努 めている。又は、入院治療が必要な可能性が 生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関 係者との関係づくりを行っている。	的に状態を確認し、今後のケアの仕方を		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、医療関係者等と共にチー ムで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の説明をし、その人に 対してできる事、でき得る範囲までケア をしていけるよう、職員間または家族と話 し合いを持つようにしている。		

自	外部	項目	自己評価	外部	評価
己	部	填 口	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての 職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に 行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、職員 の周知徹底を図っている。消防署の協 力を得て救急手当てや蘇生術の研修会 を実施している。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器 の使用法の訓練を定期的に行ってい		
I	V. ₹	 ·の人らしい暮らしを続けるための日々の	支援		
36	(14)	〇一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバ シーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングを行い、言葉掛け・対応を定期的に見直し、より良いケアが出来るよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを把握し、日常生活に意欲が出るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日 をどのように過ごしたいか、希望にそって支 援している	一日の基本的な流れはあるが、個々の ペースに合わせ柔軟に対応している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、本人の意向で着替えをしているが、その場面に応じた声掛けや支援をしている。 散髪や毛染めなど、本人の希望に応じ対応している。		

自	外	項目	自己評価	外部	評価
己	部	垻 日	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○食事を楽しむことのできる支援	併設事業所の関係で、食事は厨房より		
40	(15)	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が 一緒に準備や食事、片付けをしている	提供されている。月2回昼食を利用者と		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取状況をチェック表に記録し、職員が情報の共有をしている。本 人の好みや希望に応じて提供するように している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	毎食後、介助または見守りにより口腔ケアを行っている。就寝前には、義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かし て、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支 援を行っている	排泄チェック表を使用し、トイレ誘導する ことでトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の 工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予 防に取り組んでいる	下剤は個々の状態に応じた頻度、使用量とし、むやみに薬に頼らないようにしている。 体を動かす機会を日常的に設け自然排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで 曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応 じた入浴の支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを行い、安 心・安全に入浴できるよう心掛けている。 また、入浴剤を使い、気分転換を図って いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
己			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応 じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れ	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを敷っるようにしている		
		して、休息したり、女心して気持らよく眠れるよう支援している			
47		○加架又接 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人毎に整理し内容を把握できるようにしている。服薬時は、きちんと服用できたか確認している。状態の変化が見られた場合は、看護職員や医療機関との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援 をしている	畑作業では、経験や知恵を発揮して頂いたり、日常はお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に 出かけられるよう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも、本人の希望 を把握し、家族や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、ドライブや外食、 お弁当を持って戸外に出かけたりしてい		
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	女外出時け本人に持たせろ等工夫を		

自己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
己			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○電話や手紙の支援			
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしてい る	本人の希望に応じて支援している。		
		〇居心地のよい共用空間づくり			
52	(19)	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾りつけを活用し季節を感じて 頂いている。		
		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり			
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士でくつろげるよう工 夫している。		
		〇居心地よく過ごせる居室の配慮			
54	(20)	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	持ってきて頂き、居心地よく生活できるよ		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり			
		建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の状態や状況に合わせた環境整備に努めている。		